

2年生の総合的な探究の時間では、昨年度より企業課題探究の一環として、協働企業様のご厚意で、校外学習を実施しています。

後期夏期課外授業の日を使って、

①岡野バルブ製造株式会社の工場見学

②北九州国際交流協会の訪問

を行ってきました。



岡野バルブ製造株式会社様と協働している生徒たちが行橋市の工場見学に行ってきました。

「敷地内ではヘルメットと長袖着用がルールです。暑いけど頑張って行きましょう!」

まずは鋳鋼作業の見学。

岡野バルブ製造株式会社様は来年創業100周年を迎える老舗企業です。

気温35度を超える暑さの中、高温の中で作業に従事している方がたくさんおられ、職人の方々の精緻なお仕事に頭の下がる思いでした。



「ここでつくられたバルブは主に国内外の火力発電所、原子力発電所に納品されます。発電所での部品の不具合は重大事故につながりかねないので、何度も何度も検査をしています」



目視ではわからない傷を見つける工程を見学させていただきました。
磁力や試薬を使った作業に生徒の目が釘付けになっています。



「ここで造られたたバルブはどこで使われているんですか？」という質問には「主に国内ですが、海外ではシンガポールなどを含む東南アジアが多いですね。東南アジアは火力発電所が多く、当社の重要な販路となっています」と教えていただきました。



一部製品を触らせていただきました。

「小さめの部品だと思っていましたが、結構重いですね!」と生徒もびっくり。HPを拝見するだけではわからないことを五感で知ることができています。



「この工場では古くからある機械を何度もメンテナンスして使っています。だから、他の企業からどんなふうに使われているか見学するために、お客様が来られることも多いんですよ」

中には日本で数台しかないものもあるそうで、高校生たちも「さすが老舗企業ですね」と感心していました。

今回見学会に参加した生徒たちは全員文系クラスの生徒です。

岡野バルブ製造株式会社の永井様から

「製造業＝理系と思っていたかもしれないけど、バルブの営業や新規事業として、これまで紙面で管理していた作業の進捗等を、IoT技術を使ってDX化するなど、文系出身の人が活躍している分野もたくさんあるんですよ」と教えていただきました。

生徒たちの探究テーマである「岡野バルブ×自由ヶ丘高校で地域活性化に貢献しよう」に関わる大きなヒントをいただきました。

「私たちの生活に電力が要らなくなる限り、発電所もなくなりません。ということは、ここで造られるバルブは絶対に必要です。また発電所で使うようなバルブを造っている会社は日本にもう1社しかありません」とも教えていただきました。

日本史で習った近代日本の発展について、また、ニュースでも取り上げられるエネルギー問題について、改めて考える機会をいただきました。

岡野バルブ製造株式会社のみなさま、ありがとうございました。

また、北九州市Z世代課様から課題をいただいている生徒たちは、黒崎のコムシティ内にある「北九州国際交流協会」を訪問しました。



『やさしい日本語』を使って外国人市民と交流しよう」というイベントに参加しました。まずは「やさしい日本語」について国際交流推進員の方からレクチャー。さらに、コミュニケーションの基本として「相手を質問攻めにしないこと！」と教えていただきました。

Z世代課様からいただいたテーマは「外国人の『ゴミ出しわからん』を君のアイデアで解決せよ！」。

1学期に「ゴミ捨てのルールが見やすいところに掲示されていないのではないか?」、「ゴミ捨てに関する説明が難しいのではないか?」などの仮説を立てていた生徒たち。

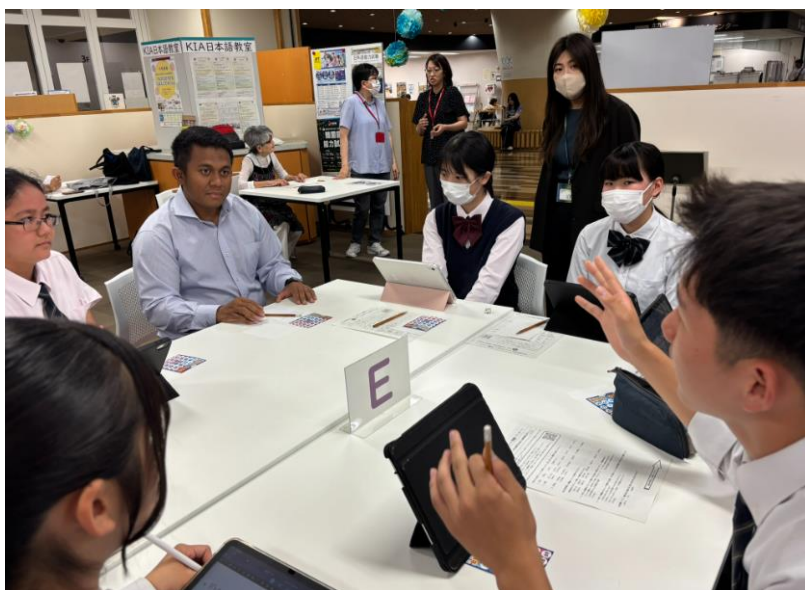
今日は「本当に問題が発生しているのか」、「解決に向けた課題設定の方向性は合っているのか」などを確認するため、質問を準備していました。



留学生の方も交えて自己紹介をしてみると、なんと最初に高校生のグループに入ってくださったのは、インドネシア出身の留学生で、大学院でゴミ問題について研究しておられる方でした。

早速質問したい気持ちを抑えて、まずはコミュニケーションをはかります。

「僕はバスケットボール部に所属していて……」と話すと、矢継ぎ早に海外のチーム名が飛び交いました。



自分たちの探究テーマを説明し、在留外国人の方にとって日本のゴミ捨てに関するルールについての印象を聞いています。

「インドネシアでは日本ほどゴミを細かく分別しません。油と生ゴミをいっしょに捨てていたり、プラスチックを分けたりすることはありません」

「日本に住み始めて1～2年のうちは『○曜日は～～ゴミの日』と言われても、～～ゴミが何のことなのか、よくわかりませんでした」
と教えていただきました。

「そもそもなぜ、『ゴミ問題』を研究しているのですか？」と尋ねたところ、インドネシアの現状を教えてくださいました。

「インドネシアのゴミ問題はとても深刻です。首都のジャカルタでも少し郊外に行くとゴミの山があります。日本の建物で言ったら21階分くらいの高さになるんですよ」

実はこの問題、日本のゴミ問題と無関係ではありません。

探究学習の過程でリンクする話題が出てくるかも知れませんね。



こちらは交流タイム。

「オノマトペを外国人の方にわかるように説明してみよう！」というテーマです。

「頭が『ずきずき』痛む」を「ずきずき」を使わずに言うなら……、と説明に挑んでいます。

「日本語にはオノマトペがあることで、感情を豊かに表現できるという素晴らしい面があります。でも、このオノマトペのせいで、外国の方にはとても伝わりにくくなっているという面もあります」と北九州国際交流協会の福田様に教えていただきました。



フランスからの留学生の方にも質問しています。

「ペットボトルをゴミに出すとき、ペットボトルとプラスチックゴミを分けるの？ なぜ？」と戸惑いました」とのこと。

フランスでもゴミの分別、というルールはありますが、日本とは内容がかなり違うようです。

「日本に住み始めて一番困ったことは何ですか？」と聞いたら「漢字が難しい！」とおっしゃっていました。

ポスターをつかってゴミの分別について説明しようと考えていたチームは、どんな表現にしたらいいのか工夫の余地がたくさんありそうですね。



最後は高校生も在留外国人の方も、一般のイベント参加者の方もいっしょに、ビンゴ大会！景品をいただいた生徒もあり、たいへん喜んでおりました。

最初は留学生の方と言葉が通じるのか不安そうにしていた生徒たちも、ゲームやおしゃべりを通して、すぐに打ち解けることができていました。また、日本語での説明が難しいものについて、身振り手振りで表現したり、i P a dで画像を検索して写真を提示したりと、工夫してコミュニケーションをとろうとしている姿も印象的でした。

会場に来てくださったZ世代課の職員の方からは

「9月の授業で今日来ていないチームのみんなに情報を共有できるよう、しっかりまとめておいてね！」と宿題も出していただきました。

北九州市立生涯学習総合センターのHPにも紹介されています。⇒ [7/30「身近な国際交流を通して国際理解を深めていこう！④」開催しました！ | 北九州市立生涯学習総合センター](#)

岡野バルブ製造株式会社のみなさま、北九州市Z世代課のみなさま、貴重な学びの機会をいただき、ありがとうございました！